

令和7年度の学校経営について

富士市立吉原小学校

1 小中一貫教育目標（学校教育目標）

あこがれ	チャレンジ	笑顔
夢をもつ子	たくましくがんばる子	仲間とともに喜ぶ子

平成30年7月に、吉原小学校・伝法小学校・吉原第一中学校の保護者・地域住民・教職員を対象とし、中学校卒業時の「願う子どもの姿」に関するアンケート調査を実施した。多種・多様な御意見をいただいたが、同年10月の三校合同学校運営協議会における協議を経て、校長等連絡会にて、大きくは『目標に向かえる』『自ら行動できる』『思いやりがある』の3つの姿に集約されると判断するに至った。

これを踏まえ、学習指導要領に基づき、子ども一人一人の「生きる力」を育むことを目指すため、吉原第一中学校区の子どもに対して家庭や地域社会とともに三校が育成すべき資質・能力を『あこがれ』『チャレンジ』『笑顔』の言葉で表現することとした。

『あこがれ』とは、夢あるいは目的・目標であり、主体的・協働的な歩みの結果として子ども自らが到達を願うゴールである。そこに到達した姿、到達しようと真摯に努力する姿が、他者のあこがれとなることもある。

『チャレンジ』とは、あこがれに向けての挑戦である。見通しや振り返りに基づく試行錯誤を繰り返しつつ、主体性と協調性をもって確実に歩み続ける姿である。個としても、チームとしても、挫折したり屈したりすることのない強さが必要である。

『笑顔』とは、あこがれへのチャレンジの結果や過程から得られた充実感・満足感を実感している姿であり、それまでの営みや成果・課題等を仲間とともに共有し、喜び、認め、励まし合う姿である。

吉原第一中学校区三校は、平成31（2019）年度より、上記目標を、これまでの学校教育目標に替え、三校が共有する「小中一貫教育目標」として設定した。なお、平成3年建立の石碑に刻まれている従前の学校教育目標「いい顔 いい動き」は校訓として位置付け、小中一貫教育目標の具現に向けた様々な活動場面において、一人一人の子どものよさを見出し、価値付けるための指標として活用していくことにする。

● 小中一貫教育について

令和6年度、市内全小中学校において一斉に小中一貫教育がスタートした。「人」「学校」「学び」「教職員」「地域」の5つをつなぐことにより、園小中の「たての接続」と、学校と家庭・地域との「よこの連携」を紡いでいく。その結果、「確かな学力の育成」「豊かな人間性の醸成」「安定した学校生活」の実現を目指す。

吉原第一中学校区では、今年度から共通して日本大学の黒田准教授を招聘し、9年間の連続性・系統性をふまえた教育活動を推進する。また、伝統的な地域の団結力とGIGA タブレットの活用で、施設分離型の児童生徒の交流をより積極的に推進していく。

● コミュニティ・スクールについて

吉原第一中学校区の三校は、他地区に先駆け、「地方教育行政の組織及び運営に関す

る法律」に基づいて、学校運営協議会を設置し、今年度で9年目を迎える。地域とともにある学校づくりの推進を進めてきた結果、現在本校にはCSボランティアとして、総合的な学習の時間・各教科の授業、読み聞かせ、花壇づくり、清掃活動、図書館ボランティア等の様々な方面で支援をいただいている。今後も、CSDを中心に、学校と地域をつないだ学びに挑戦する。

2 令和7年度の重点目標

やってみよう！

＜数値目標＞ 学校が楽しい：95%

「やってみよう！」と挑戦したことがある：90%

吉原第一中学校区、「三校共通の教育目標「あこがれ チャレンジ 笑顔」に取り組んで6年を経過した。その更なる実現のために、3つの目標の中から一つ選択し、重点目標として取り組んでみてはどうか、と考えた。

令和5年度から、学校経営方針の最重要項目には「児童の主体性を育む」を掲げている。3年目となる令和7年度は、主体性を、自己選択・自己決定をして「チャレンジ」する姿と捉え、重点目標に据えることとした。「チャレンジ」とは、目標に向かう力、自ら行動できる力を備え、主体性と協調性をもって歩む姿を現していると考えた。そして、一回限りの挑戦ではなく、児童なりの試行錯誤を繰り返したり、失敗しても立ちあがったりして、挑戦し続ける姿を育む姿を期待している。

本校の児童は、素直で優しい子が多い。しかし、時として受け身な姿が見受けられる。また、本来は挑戦する力をもちながらも、不安から自信がもてず、挑戦しない姿も見受けられた。そこで、吉原小の児童に、「チャレンジ」そのものを価値付け、たくましく挑戦する姿勢を育みたいと考えた。（非認知能力の育成）

また、児童が覚えやすく、どのような場面でも思い浮かべられる言葉として、「やってみよう！」を、令和7年度の重点目標とする。

重点目標は、令和5年度は「わくわくを見つけよう」、令和6年度は「わくわくを伝えよう」であり、2年間「わくわく」を合言葉にしてきた。コロナ禍で委縮した活動や心を活性化する役目を果たしたと捉え、今後は、より主体的な児童の姿勢を育むことを目指して、重点目標を検討した。

主体性は児童だけに限って願うものではない。教師にも主体性を発揮してほしい。特に指導部（＝三部会）では、以下の点を重点的に、児童の主体性を育む、創造的な仕掛けを提案し、推進されることを期待している。